

平成28年度 住之江区区政会議

第1回 子ども・教育部会 会議録

○事務局

どうも、こんばんは。本来7人なんですが、もともと安田部会長が出席で調整をさせていただきまして、ただ、夜勤とのクールがいきなりずれたということで、当初は丸でいただいていたんですけれども、今回ちょっと夜勤の仕事でどうしても来られないということをお伺っております。

それとあと二人、Pの関係、仁平さんと西尾さんのほうは、PTAの実行委員会がどうしても入って、PTAの副会長、事務職についておりますので、今回申しわけございませんということで、お二人に欠席をいただいておりますので、この4人で進めてまいりたいと思っております。どうぞ、ひとつよろしく願いいたします。

隣に書記のほうで担当の(丸)のほうをつけさせていただいておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、こちらのレジュメです、こちらのほう沿って、まず昨年の分と次年度予算について御説明させていただきますが、こちらは2月に使った分の、2月の分は12月末現在の分で数字を入れさせていただいておりますが、今回数字のほうが決りまりましたので、こちらのほうでもう一度御説明させていただきます。

それでは、1枚めくっていただきまして、家児相の利用件数ということで、こちらのほうから説明させていただきます。

こちらは前もお話しさせていただきましたとおり、平成25年度から区の独自経費で2名から3名に1名増員させていただいております。

主な目標は区役所に来て相談することは、ちょっと気が思いよねという人に気軽に相談に来ていただけるように学校訪問、いわゆるアウトリーチでPRを努めております。平成25年にふやした当時は若干PR不足がございまして、本格的に稼働したの

は夏以降になって、若干数字が伸びていませんが、平成26年、平成27年度はPRが行き届きまして、学校関係の面談件数、平成24年度比になると2倍から2.5倍ということになっております。

相談内容は、障がいがあるお子様の保護者が多数占めております。身近に相談相手がいなかったために、不安を取り除く面談を中心に行っております。

1枚ちょっとめくっていただきまして、ざっと説明させていただきます。一旦説明させていただきますので、最後に質問等々受付させていただきますので、スクールカウンセラーということで、こちら平成25年度から区独自予算で南港地区に一人増員しております。平成25年度当初は南地区に配置しておりましたが、平成26年度から中学校2校の2名と3名で南港の2町4小を回っております。

また、昨年度から残り3校区に派遣しております。従来、カウンセラーは中学に1名、週1回派遣されておりましたが、小学校が利用する場合は中学にお願いして、そのあいた枠を利用していました。だから、小学校が行っても、中学でいっぱいだから、相談に乗られへんわという場合がかなりありましたので、小学校にも、これは2小に一人なので、2週間に1回の派遣なのですが、確実に来てくれる日がわかってるので、計画を立てやすくなったということで学校からの声もいただいております。

必ず特定の日に来てくれるので、教師からの相談等、件数にカウントされない部分がかかなりあると伺っておりますので、また特定の生徒、年間を通して相談できるように解決に至っているのです、相談件数の減少が見られておりますと。じっくり相談できる体制が整ってきたのかなと思われております。

次に、学習支援事業ということで、次ページを済みません。

英検、漢検につきましては、受験率は90%以上、合格率もちょっと一概には言われませんが、合格率60%以上になっておりまして、一概には言えませんが、全国平均を上回っております。全国平均は難しい数値をとれば下回っているんですけども、ただ、一概には言えませんが上回っております。

こども学習サポート事業につきましては、90%以上の利用率となっております。100%利用率に近づけるため、今年度からは10%使われていないということがありましたので、今年度から各学校と連絡を密にさせていただきまして、使用時間、こちらの学校が余ったらこちらの学校に行つてねと、ちょっと足らんわというところにごんごん回していこうと思つておりまして、何とか100%利用に近づけるように今年度改善してまいります。

こども、前も申し上げましたけれども、よく勘違いされるのが教育委員会が行つてゐる放課後ステップアップ事業と混同されるということで、ことしから教育委員会のほう、放課後ステップアップ事業も再構築されまして、ステップアップをしなくて、途中で学習指導員ということで教育委員会は授業中に入る指導員をどちらか選んでくださいということになっておりまして、ステップアップから完全に撤退した小学校もあります。

それに補完的に使つていただいても構いませんということで、今年度はかなりありがたがっていただいております。

放課後ステップアップ事業との違いは、基本的にはステップアップは自主事業ということで、教えるスキルはそこまでもってゐなかつたんですけれども、一応ここの派遣する人たちには、塾の講師等の経験者ということで、教えるスキルをもつてゐる人間を派遣させていただいております。この点が大きな相違点になってくるのかなと思つております。

次ページ以降にアンケート結果、こちらは全てアンケートがまとまっておりますので、アンケート結果をつけさせていただいております。

まず1枚目が漢検に関するアンケート、こちらは全15校あるのですが、14校からの回答ということで、一つの学校がインフルエンザで2月に予定しておりましたが、学級閉鎖になりまして、受けられていません。救済措置としましては、翌年の5月にもう一回救済措置で受けられますよということはあるんですけれども、たまたまその

学校は6年生が受験対象だったので、今度は中学1年生に行っちゃったので、小学校から手が離れたので今回流したという形になっておりますので、そういうところも気をつけて昨年度からはきっちりと行ってくださいねということで、PRはしております。

この結果から見ると、学校長のほうは基本的には肯定的な意見を非常にいただいております。児童のほうからもかわらないというのは、ただやる気が出たとか、どちらかといえばやる気が出たとか、自主勉強もふやした、少しふやしたというのが5割から4割超えていますので、一定効果はあるのかなということで、続けていけたらなと思っております。

次に英検のアンケートということで、こちらのほうは7校の校長先生方からは、非常に有効である、やりたいということで回答をいただいております。生徒アンケート、こちらのについても否定的な意見よりも肯定的な意見のほうがかなり多く見受けられます。

今回、受験ということで基本的には4級までということなんですけれども、3級まで認めたんですけれども準2級、2級まで受けた子がいますので、準2級といたら高校卒業程度なんですね。こちらは、学校で受けるのは面接とかがありますので、英検の指定された会場に行かないといけないということで、こちらうちのほうで補助を出して、例えば3級までは補助を出しますから差額部分だけ御家庭でもってもらったら学校が認めたら結構ですよということで、こちらかなり枠を広げております。

その次に、こども学習サポート事業ということで、こちらのほうは18校の校長先生方からアンケートが返ってきております。やはり肯定的な意見が非常に多くあります。こちらのほうは、子供さんよりも保護者にアンケート、113名ですけれども、抽出のアンケートをとらせていただきました。有効である、どちらかというとも有効であるということが約9割の方から有効ですよというアンケートをいただいております。

授業の開催時間についても、ちょっと少ないんじゃないかというのも2割ありまし

たので、後ほど申し上げますけれども来年度、こちらのほうは増要求で予算を積みせていただいております。

以上が昨年度の振り返りということになっております。

次に、今年度の教育関連事業の一覧ということで、つけさせていただきます。今年度の教育関連予算ということで、まず、区まちづくり推進費というのは何かと申しますと、区長が自由に使える、要は区役所のお金ということとしております。先ほど申し上げました、こども学習サポート事業につきましても、時間数を今年度ふやしております。こちらのほうにつきましては100%実施ということで、調整を図ってまいりたいと考えております。

次に、漢検です、こちらのほうは学校長アンケートをとらせていただきまして、全小学校の5年生もしくは6年生ということで、小学校7校がもう1学年ふやしたいということを伺っております、小学校のほうは15校中の7校がもう1学年ふやしております。それと、小中と連続して取り組みたいということで、中学校のほうからも手が挙がりまして、4つの中学校のほうにも新たに漢検のほうを取り組ませていただいております。こちらのほうはかなり大幅の予算増になっております。200万円強増させていただきます。

次に英検なのですが、こちらは1校、英語のモデル校みたいなことをやっております、南港北中学校のほうで、英検をどうしてももう1校、1学年やりたいということで、南港北中学校のほうに1年、2年を対象に2学年やってくださいということで、予算のほうお渡ししております。こちらのほうは若干減っていますが、生徒数を精査させていただいた上に、生徒数がちょっと減っておりますので、8万円のほうを減しております。

次に発達障がいサポート事業につきましてですが、こちらも小中学校を対象に発達障がい等により、サポートの必要な児童生徒に対して教員の指示のもと登下校や放課後の課題活動の補助等々、学校からの要望に応じて派遣しております。こちらのほう

は、4万3,000円減っておるんですか、こちらほうは周知のビラ、ある一定認知されたでしょうということで、ビラのほうを減らしていただいた4万3,000円ということで、基本的には全て増要求、または前年の並みの要求ということで、教育のほうはかなり厳しい中でも増要求のほうをさせていただいております。

次に、1枚めくっていただきまして、区CM自由経費というところなのですが、これは区長がここでいうと、こども青少年局にこういうことをやってくださいということで命じて本庁の局のお金でやるということになっております。基本的にはこちら昨年と同様、家児相の運営費ということで、こちらは3名体制でふえておるのは人件費のアップ、一人頭の人件費をアップしておりますので、増要求になっております。

スクールカウンセラーにつきましても、全校配置ということで今年度も全校に配置してまいります。

最後にですが、校長経営戦略支援予算ということで、今まで教育委員会が持っていたお金で、校長先生方からの申請に基づいて、直接教育委員会と学校とでやり合っておりましたが、その一部分の枠を区教育担当次長、昨年度から教育次長という職も兼務しておりますので、その次長枠ということで住之江区の場合、480万円を区長にお渡しします。そちらで区のほうで審査して使ってくださいということで、480万円がついております。

まず1点目が南港南中学なのですが、小中一貫校、平成30年度開校に向けまして、それまでに環境を整えないといかんということで、こちらは自主学習を促すためのe-ランニング教材を取り入れて学力の向上を昨年度から図っております。今年度も継続して行っていきたいと考えています。大幅に予算は減っておりますが、こちらは初期投資費、パソコンの環境整備費とか教師向けの研修費等々、こちらは初年度以外必要ございませんので、今年度はランニングの経費のみになっております。

ここは効果が上がっているのかどうかということで、南港南中学の校長先生らからアンケートをいただきました。平成26年度と平成27年度の比較なのですが、ちょっ

と私も教育者じゃないので、よくわかりませんが、6月と2月を比べたら、「必ず2月というのは、モチベーションが下がってくるんやで」ということをおっしゃっていたのですが、導入した年6月と2月ということで6月は45%毎日の家庭学習が習慣になっているという答えをいただいたのですが、翌年の2月になっても49%が学習になっていますよということで、ここはアップしています。

ちなみに昨年度は6月が41%と回答があったのですが、2月には38%まで落ちております。一定効果があったのかなと。

それといろんなテスト、その時々によって難しいとか簡単、そういうのはあるんですけれども、一概に比較できないのですが大阪府のチャレンジテスト、特にこちらは英語のほうが一番興味を持たれて一生懸命やっているということで、一昨年まではチャレンジテスト、やはり南港南もなかなか大阪府平均を上回ることはできませんで、若干いつも下回っておりましたが、昨年それらを入れさせていただいて、府の英語の平均が100とすると、南港南は105点まで上がっておりますので、一定効果があったのかなということで、ぜひとも校長のほうは昨年度、行っていきたいということで、今回予算のほうをランニング経費、これは年間一人1万2,000円、月1,000円なのですが、1万2,000円を割り戻していただいた数、約200名ほどの分をつけさせていただいております。

続きまして、住之江区基礎学力アップ事業ということで、こちらのほうは放課後の中学校校舎、民間の塾の事業者とタイアップしまして、学校とは全く切り離して、ちょっと学校のほうで勉強するのはしんどいなこの子、ということで補習、なかなか今の学校の先生はいろんな生活指導等々で時間をとられてなかなか補習をするところま手が回らないので、できたら補習するような子供たちを「隣で塾をやっているから、あっちに行ったらどうや」というふうに、いわゆる子供の学力の向上と教職員の負担の軽減を図るということで取り組ませていただきます。

こちらのほうにつきましては、加賀屋中学校の1室をお借りしまして、一応予定で

は8月1日に開校予定ということで、業者のほうも来月の中旬ごろまでには決定して、加賀屋中学のエアコンの設置工事、門扉工事も7月じゅうに行って、8月1日から行っていきたいと考えております。こちらのほうにつきましては、初期投資のみなので、こちらは改修費だけです。次年度からは全くお役所からは、ほぼお金がかかりません。

こちらは塾のバウチャー、今、大阪市が塾のバウチャーを出してございまして、所得制限が緩和されましたので、約6割の家庭のほうに塾のバウチャーを月1万円、中学生なのですが、そのバウチャーが配付されております。そのバウチャーを使って、1万円を上限に、例えば週に2時間とか3時間とか、それは業者さんの企画提案ですので、1万円以上は取ったらあきませんよと。このバウチャーを使うことによって、塾のほう、子供たちに勉強を教えてもらうということで、初期投資だけやれば塾のほうも当然初期投資は全く要りませんので、当然1万円で何とか辛抱しますということをお願いしてございまして、今年度初期投資だけやったら、来年度からは全く必要ないのかなと。一応住之江区全体の中学生ということになっております。加賀屋を選んだのは、交通の便、地下鉄から一番近いということ。

ただ、南港のほうからも声が上がってございまして、「南港からだったら行かれへんやないか」と、できたら次年度南港のほうでも実現させたいなと思っております。

次に最後ですが、小学生の国語力向上ということで、住之江小学校と平林小学校、こちらは手を挙げていただいたのですが、辞書を購入いたしまして、それぞれの子供たちの分の辞書をお渡しして、例えば自主学習の時間、始めの会とかそういうときの時間を利用して、辞書を引いて付箋を張っていくと。アトランダムに引いて付箋を張って行って、そのことによって豊かな語彙力をつけていただいて、疑問に思ったことを調べる習慣等々をつけてもらって、総合的な国語力の向上を図ってまいりたいというふうに思っております。

以上、今年度の予算ということで、御説明申し上げました。質問、意見等ございましたら、随時受付させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



まだ、あと20分ぐらいありますので、どうですか、質問、意見等。

○女性委員

今の住之江区の基礎学力アップというのと、国語力向上という、これは基礎学力アップは1週間に何日かというのは、家庭が決められる。

○事務局

いや、こちらのほうは、業者さんです。1万円限度ですので、1万円です。毎日じゃ、さすがに業者さんも手を挙げてくれません。うちでは最低ラインです。これだけは必ずやってねと、だから週2回。

○女性委員

やってねという、週2回は来てね・・・。

○事務局

週2回は開けてくださいねと。

○女性委員

塾をやってくださいねと。

○事務局

週2回で、1コマ大体50分を予定しているのですが、それを2コマ。

○女性委員

1コマ50分を2コマ。

○事務局

2コマが1回です、それを週2回。最低はそれをやってくださいねと。あとは業者さんの企画提案ですので、その1万円の中で「いや、うち毎日できますよ」とか、そう言ってもらったら、どうぞ、どうぞと。それを選んでいただくのが選定委員会という委員の先生になっていきますので、そのプロポーザルは来月の6月8日の日に行いますということ。

ただ、業者さんがどうしてもこの事業を取りたかったら、どんどんいいことを言っ

てくるんですけれども、ほんまにできるのと。

それと、教室のキャパもありますので、一旦大体、上限30名。ただ、業者さんのほうが、うちから最低限そういうふうに提案していますけれども、「いやいや倍やりますわ、そのかわり定員が30と30。倍にふやしてください。」そういうのもありますので、そこは業者さんの提案です。

○女性委員

基礎学力というのも業者さんが「ほんなら、こういうことをやりましょうか」という。

○事務局

要は、中学1年、2年、3年で、ここまで到達してくださいよという、指導要綱みたいなのがあるので、ここまでの分ということで、それは業者さんにお渡しして、ここまでは到達できるように工夫してください、いわゆる進学塾の思いじゃないので、いわゆる学習塾ですので、基本的には学校の復習、「俺は高校からめちゃくちゃええ学校に行くねん」というような子が対象ではなくて、ちょっと学校でしんどいかな、家に帰っても教えてもらうのもしんどいかなという、そういう子らをボトムアップしたいなという思いがありますので。

○女性委員

そういう子というのは、自分からは行きたいなとめったに言わない、行きたいと思っている子はいても、なかなか自分からというのは。

○事務局

恐らく、3者面談、御父母さんと御本人さんと学校の先生とで3者面談をやった上で、「ちょっとしんどいやん、おまえ。じゃあ、そこへ行ったらどう」ということで、学校の先生からも連携しながら進めていきたいなと。

全く切り離しているんですけれども、最初に入れるのは学校の先生とも連携していて、ちょっとそこは。

○女性委員

ですよね。そういうところもちよっとお手伝いしてあげないと、せっかくいいことをしようとしているのに、利用してもらえないかどうかというのも。

さっきもおっしゃってましたけれども、南港の学校が遠い。加賀屋中学校ですかと私は思ったんですけど。

○事務局

ただ、一番交通の便が。

○女性委員

いいですね。

○事務局

それと、あと学校のセキュリティの問題があるんですね。どうしても終わるのが9時を回りますので、学校とは切り離れた形で。

○女性委員

ということは夜ですね、7時から9時。

○事務局

基本的には平日ですので。ただ、夏休み、冬休みとか長期休暇中は業者さんからの提案ということで、そこは学校と。例えば夏休みなので1時からやりたいとか、2時からやってくれというのは、そこは柔軟に業者さんと学校の先生方とでお話してくださいということで、そこは提案内容にも盛り込もうと思っております。

○女性委員

それと、次の辞書ですけども、これは朝の10分の時間とか。

○事務局

あと放課後とか。

○女性委員

それは、子供らに本当に自主的にさせる、それとも先生が前に立ってちょっとやっ

てみるかみたいな内容で。

○事務局

私も見学に行ったんですけれども、先生が最初に、それは自主習慣になるんですね、これぐらいの辞書が最後こんなになるんですわ。子供らがそうしたら一生懸命やるということで、子供らの自主性ということで。

一応これは立命館の深谷先生という方が発明した分で、かなり効果を奏しているというかそういうのを伺っておりますので。

○女性委員

これは全学年ですか。

○事務局

一応これは全学年に辞書を渡します。

○女性委員

全学年に辞書を渡して。

○事務局

はい。渡すというよりも備えつけですね、個人寄附になったらあきませんので、学校に置いておいてくださいねと、建前上は。

○女性委員

1年生にもらったやつを6年まで使う。

○事務局

ずっと持って上がって、6年生を卒業するころにこうなって、あと付箋をはがして1年生に渡すというんやけど、多分ぼろぼろになっているので、また購入せなあかんやろうかなと、それは思っております。

○女性委員

いいことですけど続くかなって。子供らはやってくれるのかなって。

○事務局

そうですね、この2校が手を挙げてくれて、住之江小学校はずっとやりたい、やりたいということ。

○女性委員

そうなんですか。

○事務局

はい。もともと南港光小学校の岡田先生がやり始めたので、それをずっと住之江小学校の前、加藤先生がどうしてもやりたいということ。

平林のほうも、渡辺先生がやりたい、やりたいということ。

○女性委員

わかりました、ありがとうございます。

○事務局

どうですか。ほかの人どうですか。

一旦これはここで置いておかせていただいて、その他の項目なんですけれども、来年度に向けての取り組みについてちょっとお話していただきたいなと思っております。

大阪市の次年度の予算要求が大体10月になっているんですね。9月に再度区政会議こういう場を予定しております。ここで具体の取り組み意見を頂戴して、この区政会議でまた報告をしていって、予算要求に向かうというような形になっております。

これが区政会議のこども教育部会の部会のほうが保護者の意見等を聞く会議ということで、かぶっているというか前回承認をいただいておりますので、こちらからの意見と区教育行政連絡会、こちらは校長先生方の意見ということで、そっちのは意見としていただきまして、また来年度の予算に向けて行っていく必要もございます。

ただ、きょう言うてきょうって、絶対無理だと思いますので、できましたら大きなテーマ、例えば「来年は学力向上、引き続き学力やるねん」とか、「いやいや体力向上やねん」とか、できたら大きなテーマをちょっと御意見をいただいて、委員の皆さんに一旦それをもって帰っていただく、それもちょっとまだ保留だったら1回もって

帰っていただいて、7月、8月とできましたらちょっとまた同じように、2回も集まるのはかなわんと、あるかもわかりませんが、できたら7月、8月ぐらいにこういうふうな部会、小部会のほうを開催いたしまして、それで9月にこの場で意見集約しまして、こども教育部会からの意見ということで、区政会議の承認をいただいて、次年度の予算要求、どこまで実現するかわかりませんが、私も一応5割以上が出た意見を実現させております。まさにこども教育部会の場合、言うた意見がどんどん実現しておりますので、去年も英検、漢検、増員もしております。そこでもんでいただいて、次年度やっていきたいと思っておりますので、ちょっと大きなテーマ、もしもございましたら。

一応、安田部会長のほうには欠席するという事なので、御意見いただくということで、意見をいただいてまいりました。安田部会長の意見だけということで御紹介させていただきますと、できたら大きなテーマ。やはり申し上げたように学力の向上がやっぱり一番と違うかなと。ちょっとやっぱりまだ、全国学テでもしんどいと。住之江区は大阪市平均を下回っておりますので、できたら学力の向上が一番かなと。それとあと別に、目新しいものをどんどん入れるよりも、今こうやってアンケートをとってもモチベーションは上がっているし、この意見を検証しながら同じようにふやすんじゃなくて、この意見を検証しながら新しいことを入れるよりも、もうちょっと、例えば増強するとか、このまま継続していただいたらどうですかというのは安田部会長のほうから意見をいただいておりますので、御紹介させていただきます。

ちょっと、議論のほう、どうぞ。大きな議論で結構ですので、「いやいや、やっぱり体力も劣っているから体力もやで」とかありましたら、御意見のほうを頂戴できたらありがたいと思っておりますので。

どうぞよろしく願いいたします。どうですか。

○女性委員

私はもう、継続させていったら。

○事務局

今年度は漢検も7つの小学校で4年生、5年生。5年生または5年生、6年生と2年に渡り、だから4年生に受けた子は翌年5年生受けられるんですね。定点監査じゃないですけど。

それと、あとうまいこといったら中学が取り決めているところでしたら、例えば5年、6年、中1といけますので、比較ができるというかそのようなことはありますので、ちょっとここらを検証しながら進めていきたいなと思っております。

どうぞ。

○門委員

よく余り、いまいちちょっとわかっていないところがあるんですけども、こども教育部会というのは、教育だけ。

○事務局

子供もですけども、ただ、保育とかになってくると、ちょっと別の担当のほうになってしまうんですけども、そこはお伝えはします。

○門委員

例えば、メンタル面っていうんですかね。

○事務局

子供の。

○門委員

そうそうそう。教育は教育で継続されたらいいと思うんですけども、なんか、やっぱり見ていると、今どきのお子さんたちは、ちょっと精神状況が余り健全でないお子さんが多いので、障がいとかそんなんじゃないかと、家庭環境とか。

○事務局

そうなってくると、家児相の職員の増員ということがあるんですね、やっぱり。

○門委員

そっちのほうをちょっとケアできひんのかなと思って。

○事務局

問題を抱えているね、はいはい。

○門委員

そうですね。

○事務局

結構ね、正直な話ありますけど、家児相って、結構難しいんですね。

○門委員

難しいんですか。

○事務局

いや、雇うのは大阪市って、ないしょですけど給料が政令都市より大分低いんですわ。やっぱり優秀な家児相の職員はみんな流れていくんです、よその市町村に。

ところが、ごっつい弊害でやっぱり区長さん方からは市長に要望するので、そこはやっぱり下げるじゃなくて、上げてなど。それと、やはりベテランの方が必要になってきますので、新人を雇っても3年、4年育てないとあかんと。なかなかベテランって、よその市町村は囲い込みに来るので、かといって伊達委員おっしゃるとおり、大事なことだと思いますので、家児相、担当課のほうと一度相談させてもらって。

例えば、どれだけおったらどうやねんと、なかなか答えは出ないと思うんですけどね。

○門委員

一人で何百人近く抱えているから、それと一定の資格が必要だから、私は考え方としてはすごく賛成です。

ちょっと、もう一つお聞きしたかったのは・・・ですけれども。いわゆる校長戦略が、区でも取れるようになったということで、・・・されてね、学力っていろんな考え方があから、確かにいわゆる学力テストなりチャレンジテストの平均を見ると、



住之江は決して全体がどこの学校も、そんなにいいことはないというようなことは実感としてあるんですけれども、そういうテストの点数を上げることよりも、私はこの新規事業で辞書を導入してとかやっておられる。

○事務局

済みません、8時をめぐりに全体会に移りたいと思いますので、各部会のほうはそろそろお話をまとめていただくようによろしくお願いいたします。

○門委員

そういうことにもっと力を入れてやることによって、今おっしゃっていたような全部わかるのではないかなということもあるし、小中一貫校とか、それはそれでいいけど意見もいろいろあるし、私個人的には小中一貫校は余り賛成ではないんですけれども。

それは別として、そこも一定平成30年に開校したら離れていくという形になってきたりしたら、私はむしろ辞書を導入するとか、私自身は朝学とか朝読書とかというのを取り組んできたことはあるんですけれども、そういうふうな感じでもう少しテストに追われるんじゃないかと、自分自身が楽しいとか、勉強したらおもしろいとか。

これだったら個人でもらえるから温度差というの受けとめかたは子供によってはいろいろかもわからないけれども、みんなが一生懸命やっていたら、自分も何かやってみようかなとか思って、たとえ1枚でも1ページでも開けるというようなことからいろいろしていくというふうなこともあるので、できたらこれもそれぞれの学校が希望されるかどうかという問題もあって、余りこうやりなさいって言うのも学校から見ても変かもわからないけど、できたらこういう事業に力を入れてもらいたいなということと、もう一つはがらっと方針もかわって中学校給食の実施ということで、10校ぐらい、すぐに・・・ということだったので、これは住之江の中でも実施が可能になるように、もしあれだったら・・・。

○事務局

なるほど。

○門委員

長く小学校の児童が減ってきているから、合わせれば中学校1校ぐらい何とかというのがあると思うんですけども、この前お聞きしたら、長く使っていなかったから、給食室の釜なんかも修繕せなあかんから、即というわけにはいかなかったって聞いたんですけども、そういう教育環境という・・・食べないというのは大変だと思うし、そういうことに力を入れてもらいたいなと個人的には思います。

○事務局

ちなみに中学食なんですけど、来年度には半分強はいこうと思っています。平成30年度は間違いなく南港南、小中一貫いきますので。

○門委員

それは、小中から。

○事務局

平成31年度までには全て終わらすということは市長は掲げていますので、一応住之江区も平成31年度の1学期が終わるころまでには7校全て親子方式ということで今の予定は立てております。

それと、門委員がおっしゃったように、ちょっと学校の先生方の意見等々もいただきながら、できたら今おっしゃったように、ここの辞書、こういう取り組みということで、がちがちの勉強ばかりじゃなくてということで、ちょっと学校の先生方のほうにも相談させてもらいながら、翌年度の区担当教育次長枠についても検討してまいりたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

○女性委員

なんか、キイを歩いていたら、放課後の学童じゃなくて、障害児を対象にした、いわゆる学童保育みたいなのが、がっとならみを見ていて来ていて、結構、自動車で送り迎えをしているから、かなり少ない子供たちかどうかわからへんけれども、狛江地

域なんかは私の知っているだけでも5カ所ぐらいあって、それでインターネットとかで調べたら、営業になっていて、チェーン店ってなっていて、立派なことをいっぱい前にも書いていますが、あのスペースではとてもできないやろうなと思いつつも、そんなに利用者があるのかということにすごく驚いて、・・・。

#### ○事務局

特別支援学校の前では、ずらっと並んでいますわ。利用制度というので、大分お金が出ますので、結構そういう企業さんが参入してきて、特別支援学校の前なんかはよく行く、登校中とか、教頭からはすごく並んでいますよということ。

#### ○女性委員

でもね、聞いていたらやっぱり保育園児でも行っているんですよ。対象にしているのをね。だから、本当に保護者の方が子育てに・・・してはるのと同時に、それだけ利用者がおるって、ある意味怖いなとかいうふうに思ったりして、そういう意味でスクールカウンセラーの自由とか、家庭相談員でも・・・私も前、最初から・・・。

これはある意味充実だけど・・・たいなと思っているんですけども、学力学力といわれると、なんかちょっと。

英検と漢定と範疇で終わってほしいという声が・・・しまって、前年・・・前の方たちももっと演劇勸奨とか、そういうのがこのごろ学校でもやりにくくなっていますから、そういうイベントみたいな、同じ企業としてやったりとかとか、できたから、そんなもあるのかな・・・。

#### ○事務局

わかりました。一旦ちょっとまとめるということで、一応学力の向上とってみたら環境の整備ですよね、これは前年度と引き続いてということで、学力向上につきましても、今の分を検証しながら引き続き行っていきたい。新規は取り組まない方向だということと、あとはおっしゃるように、家児相とかすスクールカウンセラー、ちょっと相談体制の充実というか、できたらもっと充実していただけたらなということで、

一旦置かせてもらって、具体のほうはまた一回、部会のほうに集まっていただいて、7月なり8月にまた集まっていただきますので、きょうの議事録をすぐに送らせていただいて、また1回で済むんだったら7月で終わってしまいますけど、ただ継続になれば、当然7月、8月ということで進めさせていただきますので、またひとつ御協力よろしく願いいたします。

ちょうど8時になりましたので。

そうしたら、これは発表ということなのですが、本来、保田部会長にお願いしないといけませんけれども、いらっしゃらなくて、年々からの区政会議の委員を引き続きということで、門先生と伊達さんですけれども、どうさせてもらおう。

○女性委員

まとめてよう言わんわ。

○事務局

伊達さんのほうでよろしいですか。

伊達さん済みませんが、ある程度、横でまとめさせていますので、済みませんが発表のほう、ひとつよろしく願いします。

それでは、済みません、ちょっと次席のほうへ済みません。